

障がい等地域支援ブロック会議報告(平成27年6月～平成27年10月)

資料3

月	参加機関数	参加者数	担当機関名	事例の概要	検討項目	意見	課題	
6	20	27	ぴあ南風	精神障害のある方への支援について	<p>①訪問看護の支援が入っているが、体調が悪くなると「それは多飲水からくるもの」と伝えるが、自己判断をして通院をされ、薬をもらいにいかれている。薬に対して依存的な部分もあるが、どうすれば理解してもらえるか。また多飲水をしない様にするためには、どうしたらよいか。</p> <p>②支援時に、御本人が分かりましたと素直に聞いてもらえるが、あとになれば、色々考えたりされ、残らない事が多く、同じ事を繰り返される。どういう風に伝えたりする事で伝わっていくのか。</p>	<p>①事業所に行っている間は、飲水量が少ないので、なるべく事業所に通えるようにする。服用している薬の副作用の確認等、通院している病院と連携する。生活保護の担当CWからも伝えてもらう。</p> <p>②本人が分かりやすい方法で伝える。(箇条書き、資格を活かして自分でパソコンでうってもら等)訪問看護、ヘルパーから繰り返し伝えてもらう。</p>		
7	20	23	ぷりずむ	衝動性の強い方の自立に向けた生活の構築について	<p>①本人にとって興味のない内容(意に反する)の話を、どう伝えていくべきか?一緒に話し合える環境作りとは、どのように行っていけばよいか?</p> <p>②今後の方向性(目標)が定まった場合、どのような介入でモチベーションを維持していけばよいか?</p> <p>③衝動性からくる生活習慣の乱れ等を、どのように防いでいけば良いか?</p>	<p>①祖母、相談員等、心を開いて話せる人と本人、決定権のある母と話し合いの場を設ける。</p> <p>②本人の思いを話せるのは相談員。定期的に話を聞く機会を持つ等、寄り添う姿勢で関わる。また、通院中の精神科主治医・PSWIにも一緒に関わってもらう。</p> <p>③一人暮らしの夢を叶えるため、お金を貯めるよう助言し、お金を衝動的に使わないようにする。</p>		
8	台風のため中止							

月	参加機関数	参加者数	担当機関名	事例の概要	検討項目	意見	課題
9	17	20	YOU	「長く生きられない」と告げられている本人と家族への関わり ～病気から高次脳機能障害、器質性パーソナリティなどを発症している方への支援について～	①病気から暴力が出るため、急きょ退院になり、短期入所の受け入れが難しく、有料の老人ホームで受け入れてもらった。他に方法はなかったか。 ②また、その後、障害の短期入所を調整したが、送迎の調整が大変だった。何か方法はないか。 ③夜間の自宅での生活の間に家族が本人の要求のまま対応し、過食になる。体調や体重コントロールしていくためにできる支援はないか。	①このケースは致し方なかった。むしろ良く受け取ってもらえたなと思える支援者が大変なケースと思う。 暴力があると短期入所の受け入れは難しい。いったん受け入れても無理だといわれる可能性あり。⇒歩行状態を見ながら薬の調整も必要だろう。 ②通所サービスを絡めて、ショートを利用。相談員が対応した。など ③運動する機会を作る。移動支援、訪問リハビリなどの利用。高次脳機能障害支援センターへの相談などで、家族や支援者の対応方法を検討する。など ⇒家族へのねぎらい、サポートが大切。家族が見れなくなった時の事も考え、主治医と今後の治療などについても相談しておく。	暴言や暴力、多動など動きのある方は、送迎に一人では対応できない場合がある。 ⇒短期入所の送迎を支援できる対策がないだろうか。
10	19	28	W-factory	発達障害の方の支援のあり方について	①本人が自信をつけられるようにするためには、どんな支援が必要か。 ②本人が一人暮らしを希望されたとき、グループホームも視野に入れてもよいものか。	①本人の気持ちをしっかり聞ける人が必要。家族に理解してほしい、受け入れてほしい思いがあるのでは。家族に障害の理解を促すため、主治医から両親へ説明してもらおう。支援会議にも、両親の参加を促していく。 ②具体的な方法、課題を本人と一緒に整理をして、提案して本人の選択を大切にする。 本人の状態把握では、作業能力以外にも、対人面の能力も見えていくことが大切。	